

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策I-2-1  
売れる農林水産品・加工品づくり

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 水産課長 三浦 順 電話番号 0852-22-5311

事務事業の名称	水産技術センター基礎的試験研究費	
目的	(1) 対象	漁業者
	(2) 意図	安定的な漁業生産によって経営を安定させる
事業概要	水産資源、漁場環境等のデータ収集や増養殖技術の開発、水産加工業への技術的支援を通じ、本県水産業の継続的な発展に資する基礎的な研究を実施する。資源管理手法の確立と資源の維持増大を図るため、ヤマトシジミの資源動向や生息環境をモニタリングし、漁業者等が取り組む資源管理と増殖に係る情報を提供する。	

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	シジミの生産金額	目標値	24.0	25.5	27.0	28.5	30.0	億円
	式・定義	シジミの生産金額	取組目標値						
				実績値	23.0	28.1	24.4		
			達成率	95.9	110.2	90.4	-	-	%
2	指標名		目標値						
	式・定義		取組目標値						
				実績値					
			達成率	-	-	-	-	-	%

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	19,286	20,621
うち一般財源(千円)	19,286	20,621

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

- ・宍道湖におけるヤマトシジミの資源量は高水準を維持。
- ・平成29年の鳥根県におけるヤマトシジミの生産量は4,001トン(前年比:171トン減)で、4年連続で全国1位。
- ・宍道湖においては、漁獲状況や水産技術センターによる資源調査結果等を基に、漁業者による操業日数や漁獲量の制限などにより資源管理を実施。

## 6. 成果があったこと(改善されたこと)

- ・水産技術センターの資源調査結果によると、シジミ資源は平成24、25年には低水準であったが、平成25年秋季の資源量回復以後、高水準を維持。
- ・これらを参考に漁業者による資源管理を実施。
- ・宍道湖保全再生協議会により、シジミ資源の変動要因を解明。この知見と水産技術センターの資源調査結果等を基に、シジミの資源変動を再現するシミュレーションプログラム(生態系モデル)が開発された。

## 7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

### ①困っている「状況」

- ・漁業者の自主規制により資源管理を行っているが、科学的な裏付けに乏しくその効果が判定しにくい。
- ・シジミ価格の低迷。

### ②困っている状況が発生している「原因」

- ・シジミ漁業が資源に与える影響が不明。
- ・シジミ価格は、時期やサイズにより変動。

### ③原因を解消するための「課題」

- ・宍道湖保全再生協議会が構築した生態系モデルを活用して最適な操業規制や漁獲方法を検討。

## 8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

- ・生態系モデルを活用した資源管理手法、資源の有効活用方法の確立。